

# インテック・ネットコア 設立5周年で記念パーティー



インテック・ネットコアは10月29日、東京・ロイヤルパークホテルでこれまでお世話になつたお客さま、お取引先など約200名を招待し設立5周年記念講演会、懇親会を開催した。同社は2002年5月に設立され、最先端のネットワーク技術の研究開発を行っている。

同社中川郁夫取締役の挨拶に続き、荒野高志社長が「次世代インターネットは世の中をこう変える」をテーマに講演を行った。続いて早稲田大学理工学術院情報理工学科の後藤滋樹教授が「ネットワークに寄せる社会の期待」と題して基調講演した。また、特別対談ではインテックホールディングスの中尾哲雄会長兼社長が聞き手となり、「未来を拓く人材とは」をテーマに慶應義塾大学環境情報学部の村井純教授に話を聞いた。

懇親会は、荒野社長の挨拶で幕を開け、NECビュググループの飯塚久夫社長の発声で乾杯多くの関係者が懇親を深めた。

## ごあいさつ

株式会社インテック・ネットコア 社長  
荒野 高志



## 次世代インターネットは世の中をこう変える

### イノベーションは非PCで起る

インターネットの確立からしばらくが経ち、2000年頃から質の面で変化が起つてきました。Googleは世界の知識を再構築し、Wikipediaは世界中の人たちの協調作業を達成しました。ただし、これらはすべてPC上の出来事です。これからのイノベーションはPCではなく、非PCで起ります。ケータイがその先駆けですが、今後、情報家電や車、建物、照明、ドア、信号機、食料品などがネットにつながるようになると、さらに大きな変化が起るでしょう。

### 通信と各産業の融合

モノがネットにつながり、モノの利用状況や状態が情報として取得できると、メーカーの製品企画プロセスが変わります。例えば冷蔵庫の利用状況がわかれば、モーターの過剰スックに気づくかもしれません。

ネットを経由したりリモートメンテナンスもキー・サービスとなります。機器を販売して終わりではなく、顧客とのコンタクトを継続することで、販売・営業・広告というビジネスプロセスが大幅に変わります。大型建機メーカー「コマツ」をはじめ、すでに実現している例もあります。コマツがもつと下がれば産業への大きなインパクトになるでしょう。

モノからの情報を利用したいのはメーカーに限りません。冷蔵庫のビールの残数は実は

消費者よりも、近所の酒屋やコンビニが知りたい情報なのです。こうしたイノベーションが広がると産業間の連携が深まります。そして産業自体がよりサービスに適した形に変革していくのです。

### イノベーションを創出し時代の革新に貢献

ネットコアは、すべてのモノをつなぐIPv6技術、安心して利用できる高信頼ネットワーク技術、あらゆる応用を支援するサービスプラットフォーム技術、の3つの課題を研究テーマとしています。

そして、最先端のコア技術の「研究開発」、市場のニーズを把握するための「コンサルティング」、標準化や普及啓蒙など業界の合意形成をする「業界活動」、これらの活動を支える根本となる「人材インキュベーション」という4つの活動を軸に新規事業のインキュベーションを図っています。

5年間のみなさまのご愛顧に感謝し、今後ともみなさまと一緒に新しいイノベーションを創出し、時代の変革に貢献していきたいと存じます。





聞き手 インテックホールディングス  
会長兼社長

中尾 哲雄(左)

学校法人慶應義塾常任理事  
慶應義塾大学環境情報学部 教授

村井 純氏  
(むらいじゅん)

WIDEプロジェクト代表  
内閣官房 IT戦略本部 本部員  
JUNET( Japan University Network )設立  
インテック・ネットコア創立時より顧問を務める。



## ネットワークに 寄せる 社会の期待



早稲田大学 理工学術院  
情報理工学科 教授

後藤 滋樹氏  
(ごとうしげき)

APAN( Asia Pacific Advanced Network )  
国際委員会前議長、国内委員会議長  
JPNIC理事長  
情報通信審議会 委員  
ENUM(トリアリアルジャパン) ETJP )会長

### 情報通信技術と グローバル化社会

情報通信技術やインターネットの進展は結果としてグローバル化社会をもたらしました。その評価は人により様々ですが、世の中の政治、経済の仕組みにも影響を与えており、グローバル化社会から逆戻りすることはできません。

### グローバル化が及ぼす社会変化 進むモジュール

グローバル化が及ぼす社会変化は様々ですが、近代国家の優等生といわれる日本でその変化が顕著に現れるとの指摘があります。最近とくに話題のモジュール化は、製品製作などにおいて、機能的にまとまった部品(モジュール)を利用することをいいます。

## 未来を拓く人材とは

インターネットの父、ミスターインターネットと呼ばれ、インターネットの黎明期からその発展をリードする慶應義塾大学の村井純教授に、人材育成、そしてインターネットの今後についてお話を伺った。

### ロカカルに活躍し グローバルな視野を持つ

中尾 日本はイノベーション能力が落ちてきているという評価もあるようですが、イノベーション能力を育成するために必要なことは何

講義をしましたが、学生がとても熱心ですね

村井 藤沢は数百人規模の寮を併設する計画があります。今度は泊りこみで80時間やってください。学生がキャンパスの中に住むことは国際的な競争力にも関わるのです。福澤諭吉が塾を始めた時も学生と一緒に住んでいました。一緒に住んで話をし、情報もアクセスしやすい環境から新たな人材育成の可能性も出てくると思います。また、授業をオンライン化したことで、視聴覚に障害のある学生や幅広い年代の学生が参加できるようになりました。こういう中からロカカルに活躍できてグローバルな視野も持つ人間が育つと思います。

中尾 グロカカルですね。私が客員教授をしている中国の大学も全寮制です。さて、富山では慶大の國領二郎教授のゼミをテレビ会議システムでやっています。

村井 解像度や音声の精度が上がると、相手の顔色を見て言い直すこともできるようになります。そのためには高速ネットワークが必要となり、基盤が発展するところ、ミニミニ化が向上し、さらに知識へのアクセスもしやすくなります。

中尾 知識に加え、「経験」も重要。

村井 イノベーションは経験に裏打ちされていることが大事です。技術の「ものさし」は人と社会であり、どんな良いものでもマーケットから受け入れられないため。この感覚は産学連携や学際、複合な「コンセンサス」から生

例えば、自転車は分解してもそのほとんどの部品は再利用できます。モジュール化が進んでいない自動車においても、これからの電気自動車などは共通化している部品が多くを占めます。つまり、モジュール化は避けられないのです。

### 競争社会を勝ち抜くために

モジュール化の特徴は、参入障壁が低く小さい会社にも機会があることです。参入を狙う人たちはモジュールに必要な標準化を二緒になって推進していきます。これはインターネットの分野で見られてきた姿です。

ところが、参入障壁の低さは激しい競争社会を招きます。その中を勝ち抜くには低価格路線を進めるか、他にはできないことをするしかありません。日本社会は他にはできないことをするほうが得意であり、従来もその方

向で多くの会社が事業展開してきました。それには研究開発が不可欠ですが、失敗も多く、リスクに対して社会全体でサポートすることが重要です。

このような競争社会の中で、ICTの最先端分野の研究開発に力を注ぐインテック・ネットコアのような存在は非常に重要であり、日本の役割とも思えます。チャレンジする人を皆で応援し、社会全体としてサポートしていかねばなりません。

研究開発を取り巻く環境は各国によって異なりますが、日本での情報通信技術の進展が、世界の行方を占うことになり。どのようにして成功させるかを考えることが重要であるといえるでしょう。



でしょうか。

村井 今は大きな節目の時。個人や家庭、コミュニティ、それから地球全体の関係がインターネットによって変わってきました。これからの学生はロカカルとグローバルの両方の視点を持つ必要があります。また、イノベーション

勇氣だけでできるものではなく、その背景には基礎的な力が欠かせません。例えばネットワークの分野であれば、数学や電波、制度など様々なことに関する好奇心や知的な積み重ねが大事です。

まれると思います。

### 絶対自分がやっていると「いいね」

中尾 ところで先生は、一番大切なのは、根性」とおっしゃっている。  
村井 大成するのは根性があつてしつこい奴です。せつかくの知識や経験も、「絶対自分がやっていると」というしつこさや情熱がないと吸収できません。また、とくに若い頃には自信を持たせることも大事です。それにはやはり環境ですね。やりたいことに挑戦できるチャンスがあり、挑戦しているうちにうまくいく。それが自信に結びつく。その環境を用意するのは難しいですが、インターネットはアイデアが比較的小さなテストで試せて、成果を実感できる空間です。要するに創造性の基盤。自信をつける環境としてはとても適しています。

### 他分野の良い人材を引き込む

中尾 先生はインターネットの父、ミスターインターネットと呼ばれています。

村井 インターネットのすごいところは24時間365日止まらずに動くものを、みんなの力でつくったこと。グローバルに協調する多様な自律分散システムを作ったことに、非常に大きな誇りと自信があります。人類がこんなインフラをつくったのは初めて。それだけに責任も大きいと思われています。

中尾 インターネットの今後は？

村井 今後あらゆる活動がインターネットを

基盤とするようになります。気象や環境の問題など地球全体で取り組むべき問題にしっかりと応えられる基盤にしなければなりません。誰かに頼ることはできず、我々一人ひとりが関わって未来をつくるしかないのです。空間を飛び交うデジタル情報の制御やインターネットにおける国と個人の関係、情報空間のデザインなど長いスパンで考えなければならぬ多くの課題があります。

中尾 そうなると人材も必要ですね。

村井 一番重要なことは、インターネットとその他の様々な分野との連携をどうするかという点でしょう。エネルギーや医療、農業教育など各分野の専門家との間でどんな貢献ができるのか。大きな課題だが、これは面白いですよ。インターネットの専門家が各分野に入って仕事をすると、いつ手もありませんが、多岐にわたる分野に人を出せるほど人材豊富ではありません。各分野の一番よさそうな人材をこちらに引き込むという戦略が、いい意味で必要なのではないかと思っています。

中尾 ネットコアへの期待を一言だけですか。  
村井 歴史的にも、あるタイミングにある場所に業界の有能な人材が集まる場合があります。ネットコアはまさにそんな会社です。これだけ人材が集まっているとはそこに未来があるという。また、これだけの顔ぶれが集まって応援してくれるのは人脈の強さ。それだけ責任もあるわけで、大きな理念とリーダーシップを持って妥協しないで活躍してほしいと思っています。